ヒナタムシヤドリカワザンショウ　*Assiminea* aff. *parasitologica* Kuroda

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したヨシ原湿地周辺に分布する。県内ではヨシ原湿地自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので、本種の生息地、個体数とも著しく減少したと考えられる（木村･木村, 1999）。

従来、本州～九州でムシヤドリカワザンショウとされてきたものは多くの場合は本種である（福田, 2012）。北海道と日本海側の一部に分布するムシヤドリカワザンショウ *Assiminea parasitologica* Kuroda とは分子系統解析の結果別種であることが判明したため、和名が新称された（福田, 2012）。本種はムシヤドリカワザンショウより殻表の光沢がより強く、色彩も鮮明なことより、和名のヒナタ「日向」がつけられた（福田, 2012）。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

汐川干潟, 2001 年 8 月 5 日, 木村昭一採集

【形　態】

殻長約 5 mm の小型種。カワザンショウガイ科は小型種が多く、形態的にも近似していて同定は難しい。本種は螺塔がやや高く、貝殻の色彩が赤く、縫合付近に黄色い帯が入るので区別できる。臍孔はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村･木村（1999）を含めて、約 15 カ所生息地がある。生息地では群生することが多いが、近年個体数が減少傾向にある生息地が多く確認されている。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。本州（陸奥湾以南）～九州の太平洋岸、瀬戸内海、九州西岸（博多湾～鹿児島、有明海を含む）に分布する（福田, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなヨシ原湿地周辺の落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。湿度が高いときにはヨシに登る。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなヨシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなヨシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【引用文献】

福田　宏, 2012. ヒナタムシヤドリカワザンショウ, p. 48. in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一･木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44–56.

（木村昭一）